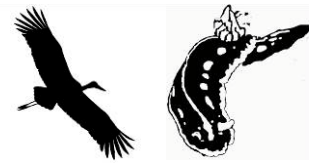


自然と生き物の色々な話



～海食地形とは～

皆さんこんにちは。私が働いている山陰海岸国立公園は地形と地質の公園とも呼ばれ、海岸沿いを散策すると特徴的な地形や岩石を見ることができます。今回は山陰海岸の特徴的な地形である海食地形についてお話ししたいと思います。

海食地形とは、「海」の波風によって岩石が浸「食」されてできた「地形」のことを言います。家や学校でも雨だれする所だけ地面が削れていることがあります、それが雨だれではなく波風によって起こっているものだと考えてもらえれば大丈夫です。

今回は海食地形に分類されるものの中から4つ選んで、皆さんにお話ししたいと思います。



海食洞

海食洞は波風によって削られてできた洞窟や洞門のことです。岩の割れ目や裂け目などの弱い場所に波風が入り込み、他の波風が当たる場所よりも岩が多く削れると、次第に大きな穴となり、洞窟や洞門となります。山陰海岸では写真の淀の洞門や釣鐘洞門などが有名です。



ポットホール

ポットホールは海岸沿いの岩場にできる半球状の穴のことです。穴は直径1cmのものから5m以上の大きなものまで様々なサイズのものがあります。これらは岩のくぼみ等に石や砂が入り込み、波風によってくぼみの中の石や砂が動くことでくぼみの内側から岩が削られてできるものです。



波食棚

波によって削られた海岸沿いにある平たい地形のことをいいます。波が柔らかい岩を削り、雨風が岩を風化させることによって、なだらかな斜面になっています。山陰海岸では写真の今子浦千畳敷や五色浜等が有名です。



離れ岩

大きな岩が波風によって削られ、海の上に浮かんだような岩のことです。元々は大きな一続きの岩だったものが、弱い部分や柔らかい部分だけ波風によって浸食され、分かれてしまったものです。写真の千貫松島は離れ岩であると同時に海食洞でもある珍しい場所です。

山陰海岸国立公園には今回紹介したもの以外にも、奇岩と呼ばれるはさかり岩やかえる岩、鴨ヶ磯海岸や浦富海岸、菜種五島といった複雑な地形と美しい景色を楽しめる場所が多くあります。瀬戸内海でも海食地形は見られますのでぜひ、皆さんの住んでいる場所の近くの海岸を散歩してみてください。